

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2397100047		
法人名	社会福祉法人 福寿園		
事業所名	グループホーム 花の里		
所在地	愛知県田原市保美町平城6-1		
自己評価作成日	平成24年8月28日	評価結果市町村受理日	平成25年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成24年9月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域に密着したサービスを行うべく、毎日の買い物や地域の催し物にも出来る限り参加し、地域に密着した施設作りを目指している。又ご利用者一人一人に合った役割・出来る事を見つけ、活躍の場を提供する事でその人らしい生活が出来る様支援しています。個々の希望にも出来る限りご家族と連携して叶えられる様努力しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	福寿園の理念がグループホームの共通理念となっています。毎朝の朝礼時に全員で唱和し、確認し共有して実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、スーパーに買い物に出掛けている為、最近では地域の方々から声を掛けて頂ける様になった。歌や踊りの交流会、地域のお祭り等のイベントに参加・招いたり、中高校生のボランティアの受け入れを行い交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ、交流会の際、実際に交流して頂き、認知症の人の理解をして頂く機会を作っている。又買い物等で地域の方々と触れ合う際、職員が間に入り、理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は、民生委員・自治会長・市担当者・家族の代表・ホーム関係者等で2ヶ月ごと開催している。会議の際に行事にも参加して頂く事もあり実際の生活の場面を見て頂き、意見・要望を聞き、活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者が運営推進委員会にも参加して下さっているので、その際に話をしたり、市の担当者から入所の相談をしたり、逆に助言を頂き、連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してのマニュアルがあり、又身体拘束廃止委員会を設置し、拘束ゼロの取り組みや職員・パート研修を行い、意識の向上を図り、安全面に配慮しながらケア・見守りを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に研修を行い、又ユニットミーティング等でも適切なケア方法について、その都度話し合っている。又、職員がストレスをためない様常に相談出来る環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員がそのような制度を理解していない為、今後勉強会などを開き、理解してもらいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を設けゆっくり・分かりやすく説明し、ご本人・ご家族の意向を聞きながら不明な点は納得いく様説明し、十分な理解を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明記し、契約時に説明している。ご家族の面会時や電話連絡時等に不満や要望を聞き、ミーティングで話し合い反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行い、そこで話し合った意見を今後反映している。又意見や提案等が気軽に言い合える様な環境作りを築ける様努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人が1年間の目標を決め、その目標を達成出来る様上司がアドバイスしている。又ここが資格を取得する事により、給与に反映させたり、研修を支援したりして意欲・向上が持てる様心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員・パート研修を行い、又職員の段階に応じて外部研修を推進しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の際に参加して下さっているグループホームの方とは、意見を交換している。又不定期だが外部研修等に参加した際意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される方に対しては、事前にしっかりと面話し不安な事や要望を聞き、他職員にも伝え安心出来る環境・関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時にご家族の不安や困っている事を傾聴し、出来るだけご家族の不安が軽減出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に相談内容を聞き、今だけでなく、将来的なサービスの紹介・説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事や得意分野に応じて教えたり・教えられたりしながら、お互い支え合い、寄り添う関係を築き一緒に過ごす事を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に出来る限り面会やグループホームの行事にも一緒に参加して頂き、近況等をお伝えしながら、共に支援する体制作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力を得ながら、外出や面会等がいつでも出来る様にしている。又、以前利用していた店、大切にしていた場所などに行く事が出来る様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関わりの難しい方・相性をふまえ、座席の配置に気を配り職員が間に入り楽しく生活出来る様努めている。皆が1つになれる様な場面作りを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方には、出来るだけお見舞いに伺ったりまた特養へ移られた方の所に面会に伺ったりしています。またその際ご家族や本人とお話しをし、断続的な関係作りにも努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランモニタリングの際、ご主人を含め話し合い、希望や意向を聞き、出来る限りその意向を尊重し、出来ない時はご本人の納得いくよう心掛けている。意思の疎通が困難な方に対しては、表情や行動から思いが把握出来る様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から聞き取りを充分に行い1人1人の自叙伝を作成し今後のケアに活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日1記録をとり、変化があればその都度記入しています。又特に注意すべき点に関しては、連絡帳に記入し、周知に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランモニタリングの際には、ご本人様を含めて話し合いを行い、ご家族とは面会や電話連絡の際、意見やアイデアを聞き、プランに反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日1記録をとり、変化があれば連絡帳に記入し月に1度はユニットリーダーミーティングを行い、ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な熱発等でご家族様が通院へ行けない場合通院しています。又、問題が発生した時には併設の専門職とも相談し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や地域の催し物に出掛け、地域と一緒に楽しむ事が出来る様になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と連絡を取り合い、納得が得られたかかりつけ医にて医療を受ける様支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通常、介護職が日頃の変化を察知し、ご家族と連携して医療機関に受診していますが、事業所内に看護師が配置されている為、相談し、協力しながら適切な対応に心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に出掛け、情報交換などは随時行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	著しくレベルが低下した場合などは、早めにご家族様と相談するよう努め、特養と連携し、方針を共有するよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員・パート研修で学び備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・地域の消防団又運営推進委員会の委員の協力を得ながら半年に一回防災訓練を(昼・夜間の場合に分け)行い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等でも学び、一人一人に合った声掛けを行う様にし、トイレ介助や居室の出入りの際は必ず本人に声を掛けてから行い、プライバシーに配慮したケアを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中で本人が思いや希望を離しやすいような雰囲気作りに努めている。飲み物、月に1回のレストランの食事等本人の希望を取り入れる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	通院など都合によって出来ない時もあるが出来る限り利用者本位の生活である事を意識して対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選べる方は自分が好きな物を着て頂き、難しい方にはご本人に確認してもらっている。又理美容においても個別に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の力量を見極め、料理・配膳・片付け等職員と一緒に行う事で食べる楽しみだけでなく参加する楽しみを支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食チェックし、栄養バランスを考えた献立作りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施を行い、記録している。ご自分で出来ない方や不十分な方に対しては、職員がお手伝いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、個々のパターンを把握し、トイレでの排泄を支援し、出来る限りご本人に行ってもらえるようケアしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめにとり、出来る限り散歩や運動リハビリなど適度な運動を心がけている。又乳製品・食物繊維の食品を取り入れる様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入りたい方には入って頂いている。ご本人の希望する時間になるべく合わせられるよう心掛けている。季節「ゆず、菖蒲湯」又は入浴剤など香りを楽しんで頂ける様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣に合わせ、心地よく休憩・安眠出来る環境が提供出来る様努めている。リビングにはTV・ソファを設置しゆっくり過ごして頂ける様境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬はファイリングしてありいつでも見れるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自が出来る役割を見出し、洗濯干し、たみ、食器の後片付け、掃除など活躍の場を作り、又書道クラブ、カラオケ等気分転換の場も設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	食材の買い物は毎日、散歩はその日の希望に沿って行っています。地域の行事、お祭り、初詣等にも出かけて楽しんで頂いています。個人的には墓参り、美容室等に出掛けられる方への支援もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使える方には、ご自分で財布も持って頂き、買い物もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から訴えがあった時には番号を押し、ご自分で話をしてもらうようにし、電話がかかってきた際は取次の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム菜園を作ったり、季節の花を飾ったりし、居心地の良い空間を作る様支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	両ユニット間の長イスで多くのご利用者がお話している所をよく見ます。又リビングでもテレビを見たり談話したりして過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りご自身が今まで使っていたものを居室に取り入れて頂ける様にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所・居室が分からない方には、大きく目印をつけたり、あらゆる部分に手すりがあつたりと工夫されている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム花の里

## 目標達成計画

作成日: 平成 25年 1月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	複合型施設として、「地域と共に歩む」ことを大切に考えている姿勢を持って運営しており、今後に向け、地域密着型サービスに即した理念の策定についても検討を期待したい。	グループホーム花の里らしい地域密着型サービスに則した理念を策定する。	法人の理念、方針をふまえながら職員皆で検討していく。(こうしたい。こうありたい。ということ職員一人ひとりが考えるプロセスを設ける。)その後集約し、理念の策定をする。	2ヶ月
2	26	利用者が主体的に生活するために、その基本方針である介護計画を、より短期間で見直しを実施すると、また別の角度から気づきが見つかることも考えられる。	利用者一人ひとりがその人らしい暮らしを続けるために、介護計画をより短期間で見直しを実施する	一人ひとりの身心の状態の変化を観察することに加え、日々のコミュニケーションの充実を図る。その上で一律でなく必要な方から、短期間で介護計画の見直しを実施する。	2ヶ月
3	10	現状、法人全体の便りをホーム便りとして送付しているが、今後に向け、ホーム独自の便りを作成することで、利用者のありのままの様子が伝わる取り組みにも期待したい。	利用者のありのままの様子が伝わる取り組みとして、グループホーム花の里独自の便りを作成する。	月次毎に施設の行事などの活動状況を写真入りの記事で紹介するグループホーム花の里独自の便りを作成する。(翌月中旬に請求書と一緒に郵送する。)	平成24年11月より発行開始しました。(毎月発行)
4	49	ホームでは、多くの外出の機会をつくっており、その様子をアルバムに残している。このような取り組みがより家族に伝わるように、今後の取り組みを期待したい。	同上	同上	同上
5					ヶ月